

第3 回 批判的言語教育国際シンポジウム

【ポスター発表&ディスカッション】
インクルージョンを推し進めると言
語教育の本質が見える！

2025年8月7日(木)・8日(金)

関西大学 千里山キャンパス

事例N002 「時間管理が苦手で、忘れ物ばかり」

事例2

時間管理

発表要旨

- 内容重視の批判的言語教育（CCBI）の根幹にある「批判的・クリティカルな視点」とは、「今ある社会をよりよくしていくという前向きな視点」と大会趣旨にあります。私たちの研究テーマは「インクルーシブな社会の実現に言語教育は何ができるのか」です。多数派の学習者を想定して設計された従来の言語教育においては、何かしらの困難に直面し、教員が意図しなくとも排除してしまっていた学習者がいるのではないかと考えます。教育実践を批判的に捉えなおし、より良い言語学習環境を構築することに結び付けるには、本大会がふさわしい発表の場であると考えております。本企画では具体的ないくつかの事例と、個人レベル・学習空間レベル・社会レベルの3層に分けた問いを参加者に提示し、何者をも排除しないために、どのような学習環境設計が可能か参加者と議論し、言語教育において本質的に重要なことは何かを考える場を持ちたいと思います。

事例002 読み上げ用（300-400字）

- 私立大学の教員である佐藤先生は、ADHDの診断を受けた学生・鈴木さんの課題管理支援に悩んでいます。
- 鈴木さんは忘れ物が多く、文字での伝達も効果が薄いことから、スマホのリマインドアプリの活用を提案。授業前に課題を知らせる仕組みを佐藤先生が授業に導入したところ、一定の効果はあったものの、根本的な解決には至りませんでした。
- さらに、留学に向けた書類提出でも問題が生じ、支援の必要性が議論されます。支援は必要だが、他の学生との公平性や教職員の負担も課題です。LMSの改修案も出ましたが、費用面で難航中。鈴木さんの支援のあり方を、学内で模索しています。

ケース 2 発表(40分)流れ

- 自己紹介 (5分)
- ケース紹介 (5分)
- ディスカッション 15分
- 社会レベルの問い 15分

事例002 時間管理が苦手で、忘れ物ばかり

自己紹介(以下から1つ選び、思ったことを話してください)

- ①あなたは今まで友達との約束や課題の提出を忘れてしまったことがありますか。普段、あなたはスケジュール管理で工夫していることはありますか。
- ②いままでに、スケジュール管理に苦勞している人が身近にいましたか。また、そのような人は、大学生活や言語学習などの授業の場で、どのような困難に直面すると思いますか。
- ③あなたは自分が担当している学習者の件で、大学や教育機関から「配慮申請」を受けたことがありますか。その「配慮申請」に対して、あなたはどのように対応しましたか。
- ④時間や期限を守ることについて、日本の社会通念ではどの程度重要視されていますか。「自己管理ができない人」はどのようなイメージで捉えられているでしょうか。

事例002 時間管理が苦手で、忘れ物ばかり

「いろいろな声」鈴木さん(当事者)

- 昔から、時間通りに家を出ても、遅刻することがありました。
- 大学に入って課題やアルバイトの自己管理をしなければなりません。
- バイトで失敗してから「リマインダアプリ」を活用し、日常生活が楽になりました。
- 中国語の授業でもアプリを使って欲しいと伝えました。クラス全員にリマインドが送られるのなら公平だし、課題の未提出者が少なくなれば、クラス全体にとっても良いことではありませんか？

事例002 時間管理が苦手で、忘れ物ばかり

「いろいろな声」佐藤先生（中国語、担任）

- 専任教員として、学習者がスムーズに学習できる環境を整えることは自分の役目だと考えている。
- 鈴木さんには是非留学に行ってもらいたいし、大学ではわたしを含めた教員や学生課の職員があれこれ気遣ってくれる。
- だが、留学先ではそのような面倒は見てもらえない。
- 留学先で予定されているプログラムを忘れたり、遅刻して参加できなければ、留学に行かせる意味がなくなってしまう。
- 自己管理ができるように指導する必要性も教育者として感じている。

事例002 時間管理が苦手で、忘れ物ばかり

「いろいろな声」高橋先生（中国語）

- 課題については配慮申請通り、文字で伝えています。逆に言えば、それ以上のことはするべきではありません。
- 大学では失敗から学習者本人が様々なことを学ぶのも大事です。
- たとえ失敗しても、経験を積ませてそこから自分なりの工夫を引き出すことこそ、学習者にとっての「学び」になるのではないのでしょうか。
- スケジュール管理のアプリは授業で使うのは抵抗を覚えます。
- 失敗を回避させることが本当に本人のためになるかどうか、私は疑問です。

事例002 時間管理が苦手で、忘れ物ばかり

「いろいろな声」伊藤さん（国際交流課 職員）

- 私は国際交流課で、提携先の大学とやり取りをしています。
- 留学先では自己管理が基本です。
- 期日までに書類を揃えたり提出することは、学生がすべて自分で行うべきです。
- 想定される困りごとに本人が対処できるように訓練しておくことこそが、学生本人のためだと私は考えます。

事例002 時間管理が苦手で、忘れ物ばかり

「いろいろな声」渡辺さん（国際交流課 職員）

- 困りごととはできるだけ一緒に解決したほうが良い。
- 留学の書類を揃えることに戸惑う学生は、鈴木さんだけではない。
- 鈴木さん一人に時間をかけるのは、不公平ではないのか？
- 業務が多すぎるので、学生一人にそんなに時間をかけたら身が持たない。

事例002 時間管理が苦手で、忘れ物ばかり

「いろいろな声」山本さん（情報センター 職員）

- LMSを改修するときに利用者一人ひとりがカスタマイズできるリマインド機能を思いついた。
- マンパワーで対応が無理なら、システムで対応できる
- 学生もみんなリマインドが使えますし、学内全体で締切に関するストレスが軽減される。
- その機能を付けるには100万単位のお金がかかり、コストはかけられない

事例002 時間管理が苦手で、忘れ物ばかり
ディスカッション

話し合いたいこと(1)

- あなたの考えは、
- 「いろいろな声」の誰に近いですか？



- あなたのクラスを履修する学生について、バリアフリー支援室から鈴木さんのような「配慮申請」が届いた場合、あなたはその学生に対し、どんな支援をするでしょうか？



事例002 時間管理が苦手で、 忘れ物ばかり

個人レベルの問い

- Q1：鈴木さんのように、
- 学習に困難を抱えている学習者は教室にいますか？
- もしいるなら、どんな工夫をしているでしょう？



事例002 時間管理が苦手で、忘れ物ばかり 学習空間レベルの問い

- Q1：この授業が他の時限だったら、昼休みの活用以外にどんな対応が考えられますか？
- Q2：鈴木さんのような学生がより良い大学生活を送るために、大学で必要な仕組みやサポートは何でしょう？



事例002 時間管理が苦手で、忘れ物ばかり
社会レベルの問い

話したいこと(2)

- Q1：鈴木さんのケースのような困難が生じた場合、それを「自己責任だ」として良いのでしょうか？「自己責任」と言われる背景には、どのようなものがあるのでしょうか？
- Q2: 時間や期日を守ることは、
- あなたの帰属するコミュニティでは
- どの程度重要なことでしょうか？



ありがとうございました

Padletに感想をお願いします

